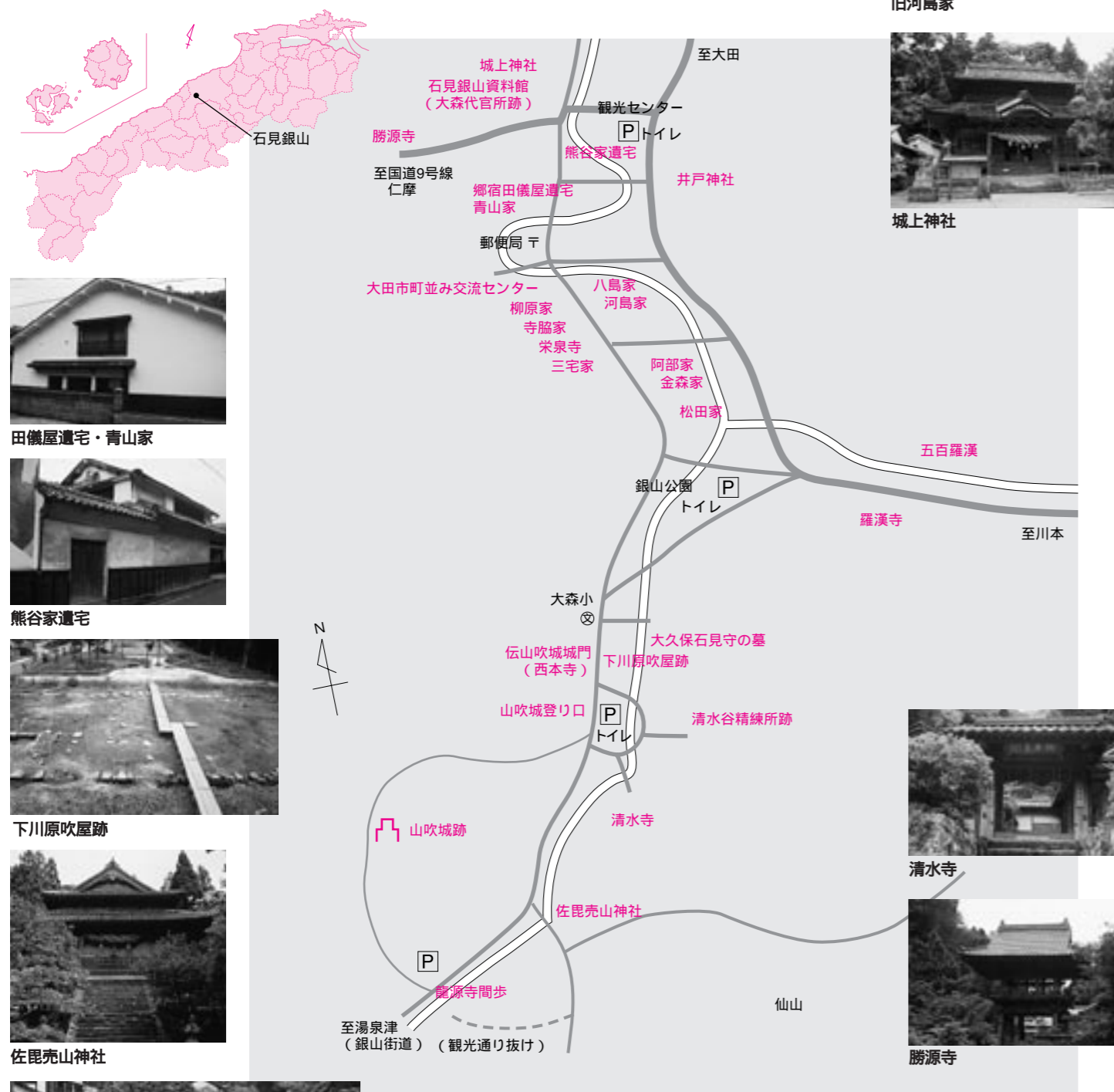


銀の街を歩く 大森町並み保存地区

# 石見銀山周辺(大田市)



田儀屋遺宅・青山家



熊谷家遺宅



下川原吹屋跡



佐毘売山神社



羅漢寺



旧河島家



城上神社



清水寺



勝源寺



石見銀山資料館

銀のことなら何でもこい  
いわみぎんざん  
**石見銀山資料館**  
(大森代官所跡)

大田市大森町  
＜指定＞国・史跡(代官所跡) 県・古文書(墨画石見銀山絵巻)  
江戸時代にタイムスリップしたような白壁の建物が、大森の町の入口にある。江戸時代天領として栄えた銀山の町を治めた代官所跡だ。鉄釘打ちのがっしりした門をくぐると門番や大工の詰め所、そして仮獄舎が見られる。今にもちょんまげ姿の役人が現われそうな、臨場感あふれる建物だ。門の奥にあるのが石見銀山資料館。明治時代に遺摩郡役所として建て替えられたものを、今でも資料館として使い、銀山で使われた道具や銀の作り方がくわしく展示説明されている。なかでも「石見銀山絵巻」は、当時の銀の採り方を描いた貴重な絵巻物なので必見。ここで銀の予備知識をつけて町の散策に出かければおもしろさも倍増。9時から5時(冬季4時)まで。無休。大人500円、子供300円。  
＜交通＞観光センターから徒歩1分  
＜連絡先＞08548-9-0846  
＜いにしえ＞1巻P44

江戸時代にタイムスリップ  
**大森の町並み**

大田市大森町  
代官所前から約1kmは、格子戸や土壁の家が続く。このエリアは江戸時代の姿がそのまま残され、武家や商家が建ち並び、まるで時代劇の主人公になった気分になる。町並みに入ってすぐある、総しゅうくいの堂々たる家が町年寄を勤めた**熊谷家遺宅(県指定)**中には入れないが、広い屋敷に4つの倉は代官所の御用達も勤めた豪商の繁栄ぶりを物語る。  
さらに南に歩くと**田儀屋遺宅・青山家(県指定)**がある。ここは大森の町では珍しい妻入りの大膽な建物で、公用でやってきた各村の庄屋が泊まった「郷宿」町並み中ほど、白い門とランプの洋風建物が、明治期の**旧大森裁判所**。当時の法廷の様子が再現されているほか、銀山の町の歴史や様子がわかりやすく紹介されている。無料公開でトイレも利用可。  
未公開の建物が多い中で唯一公開されている**地役人・旧河島家**では、実際に畳の部屋にあがって当時の武家の暮らしを実感できる。正面の**同心遺宅・柳原家(県指定)**も門をくぐって母屋のまわりを見て歩ける。武家と町家の家構えの違いなどをじっくり観察しよう。ほかにも**三宅家や阿部家、金森家**など、中には入れないが

外観だけでも歴史の香りがたどる建物がいっぱい、見どころ満載の散策コースだ。  
＜交通＞観光センターからすぐ  
＜いにしえ＞1巻P43

再現、明治の裁判所

**大田市町並み交流センター**  
(旧大森裁判所)

大田市大森町  
町並みの中ほどに、白い門とランプの洋風の建物がある。明治時代は裁判所として使われ、当時の法廷の様子が再現されている。今は交流センターとして活用され、銀山の町の歴史や様子がよくわかるビデオも見られる。トイレも利用でき、町並み散策の前にぜひ立ち寄りた。入場無料。  
＜交通＞観光センターから徒歩5分  
＜連絡先＞08548-9-0330  
＜いにしえ＞1巻P44

手をたたけば竜が鳴く  
**城上神社**

大田市大森町  
＜指定＞県・建造物(拝殿)  
代官所のすぐ北側にある神社。もとは仁摩町にあったが、大内氏が大森町に移し、毛利氏が現在地に移した。拝殿は江戸の亀井戸天満宮を模した「重層式入母屋造り」で瓦葺きの屋根は、特異なので注意してみるとよい。さらに鏡天井には極彩色で龍が描かれている。下に立って手をたたくと、この龍が鳴く。どんな鳴き声なのか聞いてみよう。拝観は無料。  
＜交通＞観光センターから徒歩3分  
＜いにしえ＞1巻P44、6巻P19

四脚の門が美しい  
**勝源寺**

大田市大森町  
＜指定＞県・史跡、市・建造物(四脚門)ほか  
大森から仁摩町に抜ける道沿い。石段を上がると迫力のある四脚門が迎えてくれる。この門は高さ10mを越え、精巧な龍が彫られている。この龍が毎晩水を飲み込んで出て出て町の人びとを困らせるので、目に釘を打って動けないようにしたとされている。この寺にはキリスト教が禁止されていた時代に使われた、かくれキリシタン地蔵が残っている。拝観料を払えば本尊を拝める。9時半から3時半。水

曜休み。大人300円、子供100円。  
＜交通＞観光センターから徒歩5分  
＜連絡先＞08548-9-0252  
＜いにしえ＞1巻P44

この顔どこかで見たような  
**羅漢寺の五百羅漢像**

大田市大森町  
＜指定＞県・彫刻(五百羅漢坐像群)  
寺の前に崖を掘った岩窟が3つあり、その中に釈迦尊像のほか、約500体の石造羅漢坐像が安置されている。精巧で1つ1つに個性がある。ユーモラスな表情の中にも温かさを感じさせる羅漢像を見ていると、誰かによく似た顔に出会えるのが不思議だ。周囲の石塔(宝篋印塔)や石橋も優れた造りだ。8時半から5時。無休。大人300円、子供150円。  
＜交通＞観光センターから徒歩10分  
＜連絡先＞08548-9-0005  
＜いにしえ＞1巻P44、6巻P41

ここで銀を作った  
**下川原吹屋跡**

大田市大森町  
大森小学校の斜め前には、「銀を作った場所」が発掘された時のままで保存されている。鉱石を砕き、鉛などを加えて溶かし、灰吹法を使って銀を作り出した跡がよくわかる。当時の作業を説明した案内板も設置されているのでわかりやすい。  
＜交通＞観光センターから車5分  
＜いにしえ＞1巻P41

貴重な寺宝がいっぱい  
**清水寺**

大田市大森町  
＜指定＞国重文・工芸(辻が花染丁字文道服) 県・絵画・工芸・書跡  
銀山開発に携わった人びとによって信仰された寺院。石段を上がると、両脇にある石像物で迎えてくれる。清水寺には多くの寺宝が、今に伝えられている。中でも「辻が花染丁字文道服」は徳川家康着用の羽織着で黄色、紅色が鮮やかな桃山時代のもの。そのほか江戸時代初期の備前焼花瓶など、寄進されて伝来した寺宝が豊富。住職に頼めば拝観も可。  
＜交通＞観光センターから車8分  
＜連絡先＞08548-9-0129  
＜いにしえ＞1巻P45

天領ならではの拝殿  
**佐毘売山神社**

大田市大森町  
＜指定＞国・史跡  
銀山の氏神として崇拝された神社で、たたら金屋子神が祭神として祀られている。1434年に大内氏によって創建された。本殿、幣殿、拝殿の三殿があり、とくに拝殿は「重層式入母屋妻入り」という幕府直轄地である天領独特のりっぱなもの。境内には銀山産出の大鉱石もある。近くには新横間間歩(国史跡)がある。  
＜交通＞観光センターから車8分  
＜いにしえ＞1巻P45、6巻P19

銀を掘るノミ音が聞こえてきそう  
**龍源寺間歩**

大田市大森町  
＜指定＞国・史跡  
銀山周辺には「間歩」と呼ばれる多くの坑道がある。そのうちのひとつを観光用に公開したもので中に唯一の坑道。長さ273m。内部に入ると、地中からの冷気が外界との違いを感じさせる。坑内の壁や天井には当時の鉱夫のノミの跡も残っている。銀鉱石を探すための狭い横穴や水抜き用の縦穴を見ると、鉱夫の苦勞が生々しく伝わってくる。坑内にはアナウンスや丁寧な説明板もあり、わかりやすい。9時から5時。12月末から1月上旬は入れない。大人400円、子供200円。  
＜交通＞観光センターから車10分  
＜連絡先＞08548-9-0347  
＜いにしえ＞1巻P40

銀山争奪戦の跡  
**山吹城跡**

大田市大森町  
＜指定＞国・史跡  
「山吹城を制するものは銀山を制す」と言われたほど、戦国時代に争奪的になった山城。別名「要香山」。銀山を発見した大内氏が鎌倉時代末期に築城したと伝えられる。銀山川に沿って歩くと、山頂への登山道(案内板あり)がある。防御のため、わざとくねらせた道や大きな石垣、何筋もの空堀などが戦国時代のまま残っている。山頂は平地になっており、遠景で見ると城跡の形がよくわかる。大森小学校の隣りにある西本寺には、山吹城の大手門が移築されている。  
＜交通＞観光センターから徒歩30分  
＜いにしえ＞1巻P45

**おたっきー情報** 大森小学校の向かいに、初代大森奉行・大久保長安の墓がある。石見銀山によって大森に「シルバーラッシュ」をもたらした大きな功績にもかかわらず、一家は殺され、当時は墓を造ることも許されなかった。現在ある墓は、銀の生産量が減った幕末に、大森の人びとが銀山再興を願って造ったものと言われている。